

2020 年 12 月 5 日 (土)

四日市大学総合政策学部 3 年

伊藤靖長 今里真博 坂梨寿莉

鈴木大誠 中田航太郎 山本元輝

防災訓練について

1. 動機

近年、災害での被害が目立っているが、どのようにして災害での被害を減らすための行動をとっているのかを疑問に思った。

2. 身近な地域の防災訓練

四日市大学のある八郷地区*1について調べた。

八郷地区での防災訓練について（防災訓練の流れ、参加人数等）*2

八郷地区は他の地区（富田地域では、80 人ぐらいしか参加しない）と比べると、参加率が高い。

八郷地区の防災訓練の流れ

各区で集まり安否確認。→会議→各会場（小学校2つ、中学校、暁高校）に別れて避難。その日のうちに時間で訓練内容が分けられ、約 2000 人が参加する。1 次では 2000 人、2 次では 1200 人、3 次では 800 人が参加する。例：1 次 9 時～ 2 次 11 時～ 3 次 14 時
まず最初に行うことは、①各区の安否確認。近所で行う。②町単位で安否確認。③4 会場に避難。

訓練の内容

- ・炊き出し ・AED 訓練や消火器などの訓練等。（学生団員やサルビア団員が補助）サルビア分団とは女性のための消防団
- ・避難所の運営方法

八郷地区の防災訓練の参加率が高い理由

- ・各家庭から、最低 1 人は参加してもらうようにする（半強制）。
- ・短時間で終了する。
- ・15 年間続けているので、多くの人に認知されている。
- ・自治会を挙げて行っている所以意識が高い。
- ・年行事になっている。

* 1) 四日市市の北部●面積／10.21 km² ●人口／12,666 人 ●世帯数／5,323 世帯
(2020 年 11 月 1 日現在 四日市市 HP より)

* 2) 以下八郷地区の情報 2020 年 10 月 3 日八郷地区消防団長福田さんのヒアリングによる

広報活動

- ・市民センターから自治会長にアナウンス。

- ・回覧板

以上、八郷の活動を見てきた。

一般的な防災訓練といえば、避難訓練、消火訓練、救出（救護）訓練、情報の伝達訓練、給食及び給水訓練などがある。

四日市市市民総ぐるみ総合防災訓練では以下のようなことを行う。 * 3

- ・安否確認を含めた避難訓練

- ・土嚢積訓練などの水防訓練

- ・避難所運営訓練（炊き出し・給水訓練）

- ・男女共同参画女性の視点を取り入れた避難所運営に係る展示

3 静岡県の防災訓練

静岡県の防災訓練について * 4

参加率が全国 1 位である静岡県について調べた。2016 年に県内で実施された震災総合訓練の参加者の延べ人数は 119 万 4214 人で、参加延べ人数の県内人口に占める割合は、全国平均 3.5% に対し 32.4% で全国 1 位。

静岡県の防災訓練の内容 * 5

家庭内空間の安全性の確保（住宅の耐震化や家具の固定を確認）、自主防災組織の体制確認
地域住民の安否確認、災害への対応（洪水・土砂災害ハザードマップで災害危険度の確認。
など

静岡県の防災訓練の参加率が高い理由 * 6

静岡県民や県内企業の地震・津波対策に対する意識の高さは、1970 年代後半の東海地震対策から始まった長年の取組みの成果と言える。他県と比べ、重点的に行っている小・中学校時代の防災訓練の経験は、大人になっても忘れないため引き続き参加意識が高いと思われる。

* 3）四日市消防本部提供資料（避難訓練資料）

* 4）防災先進国ふじのくに 2020 年 11 月 5 日取得

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-030/documents/bosaisenshin.pdf>

* 5）令和元年度静岡県地域防災訓練実施要領 2020 年 11 月 10 日静岡県 HP より取得

* 6）静岡経済研究所 HP http://www.seri.or.jp/column/cat68/post_44.html

2020 年 11 月 10 日取得

4. 防災意識を高めるためには ＊7

防災意識を高めるためには、どうすればいいのだろう。以下、雑誌「IKUSA」にのっていた防災についての特集をもとに整理した。

「防災訓練に参加しなかった場合のリスク」についてアピールし、「防災訓練に参加しなかった場合にどのようなリスクがあるか」といった、危機感を煽るような情報は防災意識向上のための有効なアイデアとなる。具体的には、「避難が遅れて命に関わるかもしれない」「現場で混乱して、必要以上に不安や恐怖に陥るかもしれない」などのリスクが挙げられる。上記のリスクなどをチラシや冊子にまとめて各家庭に配布する。チラシや冊子にまとめる際にイメージしやすいように写真やイラストなどを入れることもよい。

また、出張型体験施設の導入などもある。

出張型体験施設とは、実際の災害を体験できる設備を運搬してもらうなどして、指定の場所で災害体験ができるサービスで、例えば、専用のテントを張って「火災が発生したときの煙が立ち込めた屋内」を体験してみたり、地震が体験できる専用車両に乗って揺れを体感してみたりすることができる。

5. 参加率を高めるために

次に参加率を高めるための方法を見てみたい。より多くの人に防災訓練に参加してもらうためにニュートン・コンサルティング株式会社 コンサルタントの奥はる奈さんによると3つのアプローチがあるという。＊8

・法律で定められた義務としてのアプローチ

日本では消防法第8条で、一定の規模以上の事業者や学校に防災訓練を義務付けている。同じように、地域の住民や企業の訓練に参加を義務付ける。

・コミュニティ形成を狙ったアプローチ

子供からお年寄りまで楽しめる年間行事に合わせて防災訓練をすることで、参加者の負担を下げ、参加率向上を図りつつも楽しく訓練に参加できるようになる。

＊7) IKUSA 特集 2020年2月21日 <https://ikusa.jp/202002217807/#i-3>

＊8) 奥はる奈（ニュートン・コンサルティング株式会社 コンサルタント）

2016年8月30日 <https://www.risktaisaku.com/articles/-/1508>

なお奥はる奈さんの経歴は以下のとおり

立命館大学国際関係学部卒業。2004年から南海地震や新潟中越地震、スマトラ島沖地震などへの防災・減災活動に従事。ISMS・BCP支援などリスク対策コンサルタントを務め、女性目線の防災対策・BCPの講師や東京都一時滞在施設開設アドバイザーに就任。2015年ロンドン大学（University College London）で危機管理の修士留学後、2016年からニュートン・コンサルティング株式会社コンサルタントに。先進のBCP、危機管理の取り組みについての知見を活かし、グローバルBCPにも対応。メキシコ留学や30カ国以上を歴訪する中で危機管理のフィールドワークを展開、リスク管理能力を磨いている。

- ・訓練のハードルを下げるアプローチ

訓練実施には当然、時間やお金がかかるし、企画側への負担も相当なものになる。多くの人が持続的に参加できるようにするためには、もう少しハードルを低くして、より多くの人が気軽に参加してもらう工夫も必要。そこで考え出されたのが「シェイクアウト」という訓練。この訓練は、日本の小学校の防災訓練をヒントに、2008年にアメリカで開発され、「誰でも、どこでも、気軽に（最短1分間）」をコンセプトに、世界中に広がりを見せている。日本では2014年の参加登録者数が445万人以上と言われている（日本シェイクアウト提唱会議調べ、2014年12月）。

訓練内容は「低く（Drop）、頭を守り、（Cover）、動かない（Hold on）」の安全確保行動が中心で、家庭や職場、学校等の日常の場で気軽に参加することができる。

身の安全確保という簡単なものに留まりますが、その後、個々の家庭や企業の状況に応じて、避難訓練や救助訓練、BCP訓練*9に繋げることもできる。このような訓練を繰り返すことで、いざという時の適切な危険回避行動がとれるようになるし、少しずつでも住民や従業員一人ひとりが考え、日常の防災対策を確認する機会になるという意味ではぜひ活用したい訓練。2019年（平成31年）では683万7776人。2020年（令和2年）では、238万832人の参加登録者数がある。*10

- ・防災訓練の参加率を向上するために *7

また先ほどの「IKUSA」の特集によれば、参加率を上げるためには形式的な実績だけでなく、「結果」にも触れて呼びかけることが重要であるという。

例えば、「〇月〇日に避難訓練をしました。」というよりも、「訓練を行ったことにより、訓練に参加した全員が消火器を使えるようになりました。」や「訓練を行ったことにより、避難にかかった時間が〇分〇秒早くなりました。」などと良い結果に触れさせることで結果を見た人が「次回は自分も参加してみようかな」と感じやすくなるメリットがある。また、可能ならば、実際に参加者の名前を出したり実際に訓練している写真を載せたりして、結果に触れることも効果的で、仮に知人の名前があれば「自分も参加してみようかな」と思わせることもできる。

*9) 事業継続計画(Business Continuity Plan)

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

*10) 日本シェイクアウト提唱会議 2020年11月4日取得 <http://www.shakeout.jp/>

6. まとめ

今回防災訓練について調べてきて、参加率の高さと住民の防災訓練に対する関心度は地域性に影響するものであると感じた。静岡県は 1980 年ごろから言われている東海地震に備えるため防災意識は高くなっており、それに対する行政の施策も充実している。それにより静岡県の防災訓練の参加率が高いと思われる。

また、今回調査した三重県四日市市八郷地区では、静岡県よりも災害が少ないものの各家庭最低 1 名以上の参加を強制、訓練時間を短時間とすることで参加しやすい環境づくりの実施により防災訓練の定着化に努めていることがわかった。

静岡県はもともと意識が高いうえに、長年防災訓練を続けてきたことによる年行事化、三重県四日市市八郷地区は、静岡県と同様に長年防災訓練を続けてきたことによる年行事化、それに加え各家庭 1 名以上の強制参加、短時間の訓練と防災訓練の参加率を高めるための条件として奥はる奈さんの意見は当たっていると判断できる。

自分たちは防災について調べ、防災意識を高めるためこういった工夫をしていることを初めて知った。また自治体によって防災訓練の成果が異なり参加人数のばらつきがある。そこから防災訓練にはより多くの人々が参加できるような仕組み、体制作りが必要だと感じた。これらのことからどの地域でも災害は起こりうるということをまず自治体がいち早く考え、防災訓練がうまくいっていない地域はうまくいっている地域と協力するなど防災訓練を通して国民全体に防災に対する意識を高めていくべきだと感じた。